

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 614-01-01

事務事業名		図書館運営事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		図書館		連絡先		072-950-5501	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	1	生涯学習		款	10	教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実		項	5	社会教育費
					目	9	図書館運営費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市在住・在勤・在学者、及び広域連携自治体住民					
	目的 (どうしたいか)	多様な資料や情報を収集して地域住民の皆様の課題解決を支援し、知的で心豊かな住民生活に寄与することを目的とする。					
	手段 (事業内容)	市内6館及びブックステーション1室で資料(情報)提供を中心にリクエストサービス、レファレンスサービス、障害者サービス、学校図書館支援事業、各種集会文化活動、ステーションライブラリーや、広域貸出サービス等を行っている。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	51,104	55,437	55,929
決算額	事業費	44,699	54,581	-
	特定財源等	0	0	-

≪主な内訳(令和4年度決算)≫

【事業費】	
システム保守料	4,356千円
図書資料費	16,110千円
図書館業務委託料	20,283千円
【特定財源】	

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	資料貸出冊数	単位	冊	
指標の説明	1年間に個人貸出した冊数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		760,000	760,000	760,000
実績		606,422	661,777	-

≪事業の参考数値等≫

貸出人数	
H30	228,039人
R1	204,542人
R2	157,527人
R3	159,255人
R4	176,195人
市民一人当たりの貸出点数 6.1冊	
【成果指標実績算定式】	
①購入図書平均単価 1,838円	
②1年間に個人貸出した冊数 661,777冊	
③図書館費 208,707千円	
④令和4年度3月末人口 108,651人	
((①×②)-③)÷④≒9,274.089	

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	市民一人当たりのサービス効果	単位	円	
指標の説明	貸出図書を個人が購入したと仮定し、そこから必要経費を差し引いた分を市民の利益とする指標			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		9,500	9,500	9,500
実績		7,728	9,274	-

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。		A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。		

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
図書館は、知識基盤社会における知識・情報の重要性を踏まえ、資料や情報の提供等の利用者及び住民に対する直接的なサービスの実施や、読書活動の振興を担う機関として、また、地域の情報拠点として必要な施設である。また、住民の学びを支えることを通じて住民の暮らしを豊かな彩りあるものにするとともに、地域の課題解決に主体的・積極的に取り組む地域社会の担い手を育成する生涯学習の拠点としての役割を果たす必要がある。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
利便性の向上を図るため、中央図書館と陵南の森図書館にWi-Fiを導入し通信環境を整備する。また研修の積極的な受講により、職員のスキルアップ向上を目指す。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 614-01-02

事務事業名		ブックステーション管理運営事務事業			事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		図書館			連絡先		072-950-5501	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		予算科目	会計	1	一般会計
	施策	1	生涯学習			款	10	教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実	項		5	社会教育費	
				目		9	図書館運営費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	地域住民						
	目的 (どうしたいか)	図書館から離れた地域の方々にも、読書環境を提供する。						
	手段 (事業内容)	はびきのコロセアム内に、「ブックステーションはびきのコロセアム」を週3日午後から開設し、資料の貸出しや情報の提供を行う。						

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	38	38	38
決算額	事業費	35	35	-
	特定財源等	0	0	-

≪主な内訳(令和4年度決算)≫

【事業費】 ブックステーション施設管理(電話料): 38千円
【特定財源】

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	資料貸出冊数	単位	冊	
指標の説明		ブックステーションはびきのコロセアムの個人貸出冊数		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		7,500	7,500	7,500
実績		3,541	4,070	-

≪事業の参考数値等≫

1回開設当たり利用冊数
H30 60冊
R1 61冊
R2 38冊
R3 34冊
R4 32冊

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	ブックステーション利用者利用金額	単位	円	
指標の説明		ブックステーション利用者が本を購入したと仮定した利用者一人当たりの購入費用 (BS貸出点数×図書購入単価÷BS貸出人数)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		5,000	5,000	5,000
実績		4,658	5,464	-

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。		A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。		

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
はびきのコロセアム内にあり利用しやすく図書館まで来ることができない方でも気軽に読書に親むることができる。世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」などの情報を発信する場ともなっている。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
コロナの感染拡大も収まり利用者も戻りつつある中、限られた図書スペースを有効活用するため、人気のある図書を中心に配架したり、レイアウトを工夫するなどして、所蔵図書の充実を図る。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 614-01-03

事務事業名		ステーションライブラリー管理運営事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		図書館		連絡先		072-950-5501	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	1	生涯学習		款	10	教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実		項	5	社会教育費
					目	9	図書館運営費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	主に、古市駅・高鷲駅を利用する地域住民					
	目的 (どうしたいか)	自由で豊かな読書に親しんでもらうとともに、図書館の利用につなげる。					
	手段 (事業内容)	市民からの寄贈本を再利用し、駅に設置の本棚に定期的に本を補充するとともに、魅力的な棚づくりに勤める。また、令和元年度に世界遺産となった、百舌鳥・古市古墳群の情報なども発信していく。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	0	0	0
決算額	事業費	0	0	-
	特定財源等	0	0	-

≪主な内訳(令和4年度決算)≫

【事業費】
【特定財源】

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	資料補充回数	単位	回	
指標の説明		1年間に資料の補充を行った回数		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		70	10	20
実績		0	0	-

≪事業の参考数値等≫

駅の本棚への寄贈冊数	
H30	646冊
R1	1,943冊
R2	0冊
R3	332冊
R4	75冊
令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 3年度4年度は寄贈のみあった	

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	資料補充冊数	単位	冊	
指標の説明		1年間に資料を補充した冊数		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		4,000	2,000	4,000
実績		0	0	-

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。		B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。		

総合評価	<b>現状維持</b>
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
高鷲駅および古市駅構内にあり利用しやすく、図書館まで来ることができない方でも気軽に読書に親しむことができる。世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」などの情報を発信する場ともなっている。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
コロナの感染拡大も収まりつつある中、令和2年3月から休止していた本の補充を令和5年11月から再開し、寄贈図書の有効活用に努める。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 614-01-04

事務事業名		大学図書館との連携推進事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		図書館		連絡先		072-950-5501	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	1	生涯学習		款	10	教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実		項	5	社会教育費
					目	9	図書館運営費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市在住・在勤・在学者					
	目的 (どうしたいか)	市民の利便性の向上と、情報提供範囲の拡大を目的とする。					
	手段 (事業内容)	四天王寺大学との間での連携協定に基づき、資料の借用や学生の受入れ・交流・情報提供・業務の連携を行う。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】  【特定財源】	
当初予算額	事業費	0	0	0		
決算額	事業費	0	0	-		
	特定財源等	0	0	-		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	事業連携回数	単位	回	
指標の説明	大学図書館との業務連携回数(貸出+インターンシップ等)			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		15	5	5
実績		2	5	-

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	大学図書館資料借用冊数	単位	冊	
指標の説明	四天王寺大学図書館からの資料借用冊数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		15	15	15
実績		0	4	-

≪事業の参考数値等≫

相互貸借冊数(自治体間貸出も含む)		
	(貸出)	(借用)
H30	4,000冊	4,206冊
R1	3,726冊	3,093冊
R2	3,338冊	3,701冊
R3	3,683冊	3,511冊
R4	3,369冊	3,648冊

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待通りの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	<b>現状維持</b>
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
<p>様々な学問分野の専門書は、必ずしも公共図書館ですべて収集する必要はなく、利用者の希望に応じて所蔵する大学図書館などの協力を得て提供することが効率的であり、今後も必要である。またインターンシップの学生を積極的に図書館でも受け入れ、貴重な社会経験の場となっている。</p>	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
<p>司書実習やインターンシップの受入れを積極的に行い、事業共催など連携強化に向けた取り組みを実施する。</p>

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 614-01-05

事務事業名		はびきの電子図書館事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		図書館		連絡先		072-950-5501	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	1	生涯学習		款	10	教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実		項	5	社会教育費
					目	9	図書館運営費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市在住・在勤・在学者					
	目的 (どうしたいか)	時間的制約などの理由で従来図書館を利用できていなかった人や、障害や高齢などにより図書館の利用が困難な方への読書環境の整備を図るとともに、市内小中学校、義務教育学校と連携し、児童・生徒の読書環境の充実に寄与することを目的とする。					
	手段 (事業内容)	電子図書として出版される商用コンテンツ、広報・観光ガイド等の市出版物、デジタル化された貴重資料等をシステム上で貸出手続きをすることにより、利用者の手持ちのパソコン・タブレット端末・スマートフォンで閲覧できるサービスを提供する。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	-	4,257	2,288
決算額	事業費	-	4,255	-
	特定財源等	-	0	-

≪主な内訳(令和4年度決算)≫

【事業費】
電子図書館サービス構築委託料 2,750千円
電子図書館サービス利用料 1,505千円
【特定財源】

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	電子書籍の蔵書数	単位	点	
指標の説明	令和4年10月1日導入後から令和5年3月31日までに所蔵した電子書籍の総点数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	-	9,500	10,000	
実績	-	9,734	-	

≪事業の参考数値等≫

【成果指標の目標の根拠】
利用数:500回/月

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	電子図書館の利用数(ログイン数)	単位	回	
指標の説明	令和4年10月1日導入後から令和5年3月31日までに電子図書館を利用した回数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	-	3,000	6,000	
実績	-	3,234	-	

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響がある。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。		B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。		

総合評価	<b>拡充・重点化</b>
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
<p>24時間提供可能な非来館型の「はびきの電子図書館」の導入により、いつでもどこにいても、インターネットを通じて電子書籍の検索・貸出・返却・閲覧ができるとともに、幅広い利用者層へのサービスが拡充されることで、利便性の向上や利用者の増加が期待できる。</p> <p>また、小中学校、義務教育学校において、すべての児童・生徒に配備されているタブレット端末から電子図書館を利用することができ、子どもが本に親しむ機会が確保され、教育環境の充実に寄与している。</p>	

今後の改善内容	(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
<p>電子図書として出版される商用コンテンツの拡充、電子図書館へ登録する広報誌・行政刊行物などの地域資料の充実を図る。</p> <p>電子図書館の利用促進を図るため、広報誌・ウェブサイト・SNS・図書館が発行する刊行物などで普及啓発に努める。</p>	

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 614-02-01

事務事業名		子ども読書活動推進事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		図書館		連絡先		072-950-5501	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	1	生涯学習		款	10	教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実		項	5	社会教育費
					目	9	図書館運営費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	子ども(おおむね18歳以下の者)と子どもに関わる大人					
	目的 (どうしたいか)	子どもが読書に親しむ機会を提供し、子どもの健やかな成長に資することを目的とする。					
	手段 (事業内容)	資料の整備充実を図り、家庭・地域・学校が連携し市全体として取り組みを行う。また、子どもの読書活動への理解と関心を深めるため、啓発・広報活動を行う。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 資料費(児童書):5,419千円	
当初予算額	事業費	5,695	5,695	5,695	【特定財源】 令和4年度大阪府新子育て支援交付金(子育て支援(市町村計画)枠事業):180千円	
決算額	事業費	5,679	5,419	-		
	特定財源等	257	180	-		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	児童書購入冊数	単位	冊	
指標の説明		1年間に購入した児童書冊数		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		3,600	3,600	3,600
実績		3,384	3,269	-

【事業費】 資料費(児童書):5,419千円
【特定財源】 令和4年度大阪府新子育て支援交付金(子育て支援(市町村計画)枠事業):180千円

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	児童書貸出冊数	単位	冊	
指標の説明		1年間に利用のあった児童書冊数(個人貸出+団体貸出)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		320,000	320,000	320,000
実績		264,299	284,511	-

≪事業の参考数値等≫	
児童書(団体)貸出冊数	
H30	46,400冊
R1	39,225冊
R2	37,509冊
R3	45,510冊
R4	45,546冊

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。		B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。		

総合評価	<b>拡充・重点化</b>
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
<p>子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであり、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならないため、法律(「子どもの読書活動の推進に関する法律」)上事業の推進が義務付けられている。現状では、なお子どもの読書量の減少に歯止めがかかっている。</p>	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
<p>令和2年3月に策定した「第3次羽曳野市子ども読書活動推進計画」の計画期間は、令和6年度までのおおむね5年間となっているため、次期「第4次羽曳野市子ども読書活動推進計画」の令和7年3月策定に向け、意見集約や課題の抽出などに取り組む。</p>

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 614-02-02

事務事業名		学校図書館支援事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		図書館		連絡先		072-950-5501	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	1	生涯学習		款	10	教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実		項	5	社会教育費
					目	9	図書館運営費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	幼稚園児・保育園児・小学生・中学生・高校生と先生					
	目的 (どうしたいか)	子どもたちへの豊かな読書環境の提供を行う。					
	手段 (事業内容)	図書館が、学校図書館等読書支援センターとして、授業等で必要な資料の購入と、計画的な資料の提供を行う。”たけのこくんブックボックス”(1クラス50冊程度)を希望のクラス・学校へ届ける。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】  【特定財源】	
当初予算額	事業費	0	0	0		
決算額	事業費	0	0	-		
	特定財源等	0	0	-		

活動指標 (事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)			
指標名	学校等連絡車運行回数	単位	回
指標の説明	1年間に学校連絡車及び図書館から直接貸出車が運行した回数		
		令和3年度	令和4年度
目標(見込)	180	180	180
実績	146	140	-

【事業費】
【特定財源】

成果指標 (事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)			
指標名	学校図書館等貸出冊数	単位	冊
指標の説明	学校図書館及び幼稚園・保育園等に学校連絡車及び図書館から直接運んだ冊数(学校図書館貸出数+ブックボックス貸出冊数)		
		令和3年度	令和4年度
目標(見込)	43,000	50,000	47,000
実績	40,756	46,560	-

≪事業の参考数値等≫

学校等への総貸出冊数	
H30	29,861冊
R1	24,192冊
R2	27,300冊
R3	28,696冊
R4	33,804冊

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。		B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。		

総合評価	<b>拡充・重点化</b>
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
<p>子どもの読書活動推進事業のうち、学校図書館支援は大きな位置を占めている。これらの図書を各校、各学級で用意することは困難であり、図書館の果たすべき役割は大きい。今後さらに必要な支援を行っていく必要がある。</p>	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
<p>市内小中学校にも一定数の外国人の児童、生徒がおり、その子どもたちの母語または母国語の図書へのニーズは大きい。今後、市立図書館として多文化サービスにとりくみ、外国語の図書も収集して学校図書館に提供する。</p> <p>また、令和4年度から開始した、小中学校、義務教育学校の新1年生に対し、本人確認不要の図書館貸出申込書の配布を継続する。</p>